

花咲く季節を訪ねる欧州10カ国

# ヨーロッパ 花めぐり

2005-06

夢に見た  
美しい風景に  
抱かれる。



南仏プロヴァンス  
ラベンダー街道を旅する  
花祭りが誘うイタリア、  
ブルガリア、英国、オランダ  
アルプスのお花畑を訪ねて

パリの  
人気花屋さん  
集合！

真野響子  
「私の花の旅」

写真家が  
アトバイスする  
花の撮り方



ゴッホの足跡が今もとどれる街

# アルル

Arles



上/黄色と白のストライプが軽快なテラス席。左奥の床からはシャリテ礼拝堂も見える  
右/ナスのビュレに卵を添えて型に入れて焼いた「バブロン」。アヴィニョンの名物料理をル・マルケ風にアレンジ



軽快なテラスで街を眺めながらのランチ

## ル・マルケ

Lou Marquet

**重** 厚な雲間気のダイニングもあるが、やはり赤いゼラニウムが咲き乱れ、光にあふれるテラスがいい。街のにぎわいを眺めながらであれば、本格フレンチも気取りなく味わえる。新鮮な野菜を使った3品のランチコース(€20)がおすすぬ。花柄が美しいこの店のオリジナル、リモージュのお皿にも注目して。

☎P.33 ☎boulevard des Lices, 13631 Arles ☎☎北室内所からリス通り右手に、ホテル・ジュール・セザール(Hôtel Jules César)1階  
☎04.90.52.52.52 ☎☎04.90.52.52.53 ☎12:00~13:30, 19:00~21:00 ☎無休 ☎☎ランチコース€20, 27。ディナーコース€55, 75 ☎☎A.D.J.M.V ☎☎www.hotel-julescesar.fr ☎☎julescesar2@wanadoo.fr

一面のヒマワリ畑を抜けて走る

## アルピーユ列車

Le Train des Alpilles

**赤** ×クリーム色の車両はレトロで愛嬌たっぷり。アルルからフォンヴィエイユまで40分の列車紀行は、道路と交差する地点でいちいち止まるのんびりした雰囲気だ。ヒマワリの時期なら、畑の中を走り抜ける絶好のロケーションも。路線がたくさんあった時代には、ゴッホもこの列車でスケッチ旅行に出かけたそうだ。

☎P.33 ☎17, avenue de Hongrie, 13200 Arles ☎☎アルルのアルピーユ列車乗車駅へは、中心部から車で約10分。オンブリー通り北  
上 ☎04.90.18.81.31 ☎☎04.90.18.81.41 ☎☎大人€8, 4~12歳€5 ☎☎www.rdt13.fr ☎☎alrandesalpilles@rdt13.fr ☎☎4~6月の水・土曜(祝日除く)に1日2往復運行。夜日は客員乗降車の運行あり



**南** 仏の光を求めてこの街に来たゴッホは、ここで暮らした15ヶ月の間に300点を超える作品を描いた。「夜のカフェテラス」「黄色い家」「アルルの燈臺院の庭」など、ゴッホが描いた場所は今でも街中に残っている。また、ローマの植民都市として栄えたアルルには、円形競技場や古代劇場などローマ時代の遺跡も点在し、迷路のような路地を進むたび、名所旧跡に出合える。水曜日には規模の大きな朝市が立ち、鮮やかな果物や野菜が並ぶ。これもゴッホが目にした風景の一部だと思えると感慨深い。

☎☎アヴィニョンから約35km、N670を南西に進む。TGVアヴィニョン駅からアルル行き国鉄バスで約40分  
☎☎アルル観光局 Office du Tourisme d'Arles Camargue  
☎☎boulevard des Lices, Arles ☎☎04.90.18.41.20 ☎☎04.90.18.41.29 ☎☎www.tourisme.ville-arles.fr



1 アルル郊外の街道沿いにはヒマワリ畑が広がっている。明るい花という印象が強いが、本棚に集がれ、その方向に一直線に顔を向けて立つヒマワリは健気に見える。2 ゴッホが療養生活を送った病院は、彼が描いた絵をもとに「エスパス・ヴァン・ゴッホ」として再現されている。3 入り組んだ細い路地には、かわいい雑貨を売るショップも。アルルはショッピングも楽しい街だ

たった1両の列車はおもちゃのようにかわいらしい。19世紀には数多くの路線があったそう。2001年に観光列車として復活。カマルグの水田や小麦畑、ヒマワリ畑を抜けてのんびり走る。交差点では係員が降りて旗を振って車を止める姿も